

【福島市】

会 議 名	平成30年7月17日定例記者会見
日 時	平成30年7月17日（火） 午後10時～10時32分
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長補佐	<p>開会</p> <p>それでは定刻になりました。ただいまから市長定例記者会見を始めます。本日は市からの発表事項が4件となっております。それでは市の発表事項について一括して市長からご説明をお願いします。</p>
市長	<p>皆さん、おはようございます。</p> <p>まずはじめに、この度の西日本豪雨につきまして申し上げます。私のコメントにつきましては、先週の11日に発表させていただきましたが、改めましてこの度の西日本豪雨におきまして、亡くなられました方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。</p> <p>東日本大震災では、本市におきましても全国から大変温かいご支援をいただきました。私どもとしても、被災地の復旧・復興のためにできる限りのことをしたいということでこれまでも取り組んでおりますし、今後ともそういった気持ちで被災地の支援に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>なかなか具体的な対応につきましては、個別にどんどんやりたいといっても混乱するばかりですので、全国的な窓口と連携をして、その整理の上で私どもに割り当てられたものを実行するというで取り組んでおりますが、今日紙を配らせていただいておりますが、2つ確定をいたしております。</p> <p>1つは人的派遣で、厚生労働省から、県を通じて保健師2名の派遣を要請いただきました。本市といたしましては、この7月26日から8月2日にかけて、岡山県倉敷市に保健師2名を派遣するというで現在予定をいたしております。</p> <p>また義援金関係ですが、本市では常々、日本赤十字社福島県支部を通じた義援金の窓口をさせていただいておりますが、今回この西日本豪雨、正確には平成30年7月の豪雨災害義援金という形で、窓口で受付をいたしまして、日赤を通じて被災地にお届けするという取り組みをさせていただいております。</p> <p>こうしたことで少しでも早く被災地の復旧ができることを祈念しております。私は個人的にも、岡山県にいた経験がありますので、</p>

被災者の皆様方といろいろな形で連絡をとっております。一部の首長などとも話をしておりますが、できる限り現地の平穏が戻る事が早くなるように私どもとしても努めてまいりたいと思います。

市からの発表事項

河川水位の急激な増水も見逃しません！

～県内初！！「警戒周知型水位計」の設置～

続いて、記者発表に移りたいと思いますが、今豪雨災害の件で述べましたが、本市の災害対応策・豪雨対策としては、先週に不動沢の第三砂防堰堤が完成いたしまして、その点ではハード面の、整備がまた一歩進んだということですが、今回はソフト面の対策として、警戒周知型水位計というものを県内で初めて設置いたします。

河川水位が急激に増水した場合にも、リアルタイムでそれを感知して、周知をするという仕組みです。どこにあるかということ、本文にある通り、本市の祓川、ここは局地的な豪雨があるとすぐに増水して、浸水被害が度々起きています。この浸水被害に対して早期の対策を実施するために、森合地区に祓川警戒周知型水位計というものを設置しました。水位計の設置によって、メールアドレスの登録者にすぐに警戒のメールを配信することができます。沿川の皆様方には登録いただいて、早期の防災・減災対応に活用していただければと考えております。

この水位計の特色は、下記の4番にあるように、河川水を1分ごとに24時間モニタリングできます。ちなみに国で使っているものは今10分ごとなので、その点では非常にきめ細かな水位の動きを感知できるというものです。そして感知したものをリアルタイムで情報提供します。市のホームページでも、情報掲載ページのリンクを掲載いたします。水位情報をグラフ表示して、パソコンやスマートフォンでも確認できるというものです。

警戒メール配信の登録方法は5にあるように、福島市のホームページ「かんたん申請・申込システム」からの登録というのが可能です。そしてまた、申請用紙での登録も本庁、清水支所の窓口でも受け付けているので、ご活用いただければと思います。

ちなみに、「来てください」というだけではなく、我々も地域の方々の集まりの時などに行って、特に高齢者の皆さん、登録などそういったものが不得手な場合もありますので、我々ができるだけ代行的な役割をして、皆さんに活用していただけるようにしていきたいと思っています。

具体的なイメージは次のページにあります。設置場所はちょうど左下の方に福島製鋼というものが書かれていますが、西陸橋を

越えて福島製鋼さんがありますが、そのさらに北側ということになります。水位のイメージは、最初の警戒水位が75 c m、次の水位が浸水注意水位で100 c m、そして橋げたの高さが120 c mで浸水危険水位ということでレベル3を設定しています。こうしたことで河川の増水対策に取り組んでまいります。

ちなみにこの祓川流域はこれまでも、近年でいいますと昨年の7月29日、最大雨量が71ミリの時に、床上で9戸、床下で6戸が浸水しました。一昨年、28年の8月に2回床上、床下浸水被害がそれぞれ生じています。そういった面から、今回まずは設置をいたしまして、運用状況や効果などを検証して、今後の対策に役立てたいと考えています。

**リアルタイム線量測定システムの配置見直しに関する住民説明会 開催
～福島市では2回開催～**

次の発表に移りたいと思います。リアルタイム線量測定システムの配置見直しに関する住民説明会の開催のお知らせです。

これは我々ではなくて、主催は原子力規制庁で行いますが、私も原子力規制庁に要望をいたしておりまして、福島市では2回にわたって住民説明会を開催していただくことになりました。

日時は1番にありますように8月30日の夜になります。木曜日の夜にアオウゼで行います。4階の多目的ホールで定員が170名ということ。2回目は日曜日、平日になかなか来られないという方のために、日曜日の昼間1時半～3時半まで、グリーンパレス2階で定員400名ということで計画させていただいています。

対象者は本市にお住いの方で、4番に申込方法、問い合わせ先がありますが、これはいずれも原子力規制庁になりますのでこちらの方をお願いしたいと思います。

リアルタイム線量計に関しましては、今、どのような状況になっているかと申しますと、いわゆる今回の対象になっているリアルタイム線量測定システムは、市内に371台あります。これが見直しの対象で、これ以外に可搬型のモニタリングポストが20台、固定型のモニタリングポスト3台がありまして、この23台は見直しの対象外となっています。

こうした中で、本市の姿勢としてはこれまでも申し上げている通り、長期にわたって住民、市外からいらっしゃる方の安心安全のために、国の責任において、このリアルタイム線量測定システムによる測量が必要だという立場です。とりわけ、まだ下に除染土壌が埋まっている間は、撤去には我々としては賛成できないと申し上げております。ただ一方で、その除染土壌が撤去されたあとは相当数量を設置していただいて、長期的に測量監視をされていて欲しいという立場にありまして、こういった姿勢で今後とも臨ん

でまいりたいと考えております。
ただ今回は住民の皆さんへの説明会なので、住民の皆さん方が、自分たちが持っているお気持ちをその場で意見を言っていたり、問い合わせをしていただければと思います。これに関しては以上です。

東京2020 2年前のイベントを開催します。

～オリンピック・パラリンピアンと語る夢×未来～

それから次の発表事項は、東京2020の2年前のイベントを開催するというものです。

子どもたちが、オリンピック・パラリンピアンと触れ合っていたいて、交流するというイベントをこの8月2日に実施します。このイベントを通じて、競技への関心や理解を促して、子どもたちの夢や希望を育て、あるいはどうしてもパラの部分の関心が薄くなるので、障がい者スポーツへの理解と関心も併せて高めていただいて、共生社会の実現に向けて取り組みをしてまいりたいと思います。

時間は午前10時～12時半までとなっております、場所は国体記念体育館のメインアリーナということです。内容はこちらにありますように、オリンピック・パラリンピアンと語る夢×未来ということで、NHKの放送局のアナウンサーの山田賢治さんにコーディネートをいただきまして、県出身のオリンピック、バスケットボールですが萩原美樹子さん。それから野球はジョニー黒木さんに来ていただきます。それからパラリンピックの関係では、車椅子バスケットボールで福島市在住の増子恵美さん、それから同じく車椅子バスケットで、北京・ロンドンのパラリンピック代表でありました、福島在住の佐藤聡さん、そして私が一応加わるとい形になっております。

今回はこういったお話だけではなくて、まずボッチャの競技体験をやります。これに関してはかなりの数の皆さんが体験できるように、ボッチャをたくさんかき集めて皆さんに体験いただきたいと思っています。それから聖火リレーをやってみようと思います。先日、札幌オリンピックの聖火のトーチをいただきました。それを使って、さすがに火は使えないのですが、それを持ってみんなでリレーをやるということを今回考えております。これで本当にリレーをやったように思ってもらえると、盛り上がるかと思えます。

それから、カウントダウンボードというものを設置いたします。最終的にはこの市役所1階のエントランスホールに設置いたしますが、この日に体育館の方で除幕式を行うということです。対象者は市内の小学生、原則4年生以上とその保護者の方という

<p>広報課長補佐</p> <p>記者</p>	<p>ことでありまして、申込方法は5番に掲げる通りです。併せてぜひ皆さんにご協力をお願いしたいのですが、過去にオリンピック・パラリンピックで実際に使った物があると非常に盛り上がります。その点では、オリンピック・パラリンピックに関連するグッズをお持ちの方は、ぜひそういった情報をお寄せいただいで、できればそういったものを貸していただきたいと思っています。今回札幌オリンピックのトーチがこういった形で使われましたが、前回の東京オリンピック、あるいは長野もありますので、こういった面でお持ちの方には、ぜひご連絡をいただきたいと思っております。</p> <p>福島県統一の取り組みへ！ 「空気のきれいな施設」・「空気のきれいな車両」認証制度始動！ それから最後になりますが、これは一部報道されている面がありますが、「空気のきれいな施設」・「空気のきれいな車両」認証制度、これを福島県統一で取り組みますので、本市でも保健所を設置する市として、仕組みを導入して県全体に取り組む、それに加わるということです。 認証を受けた車両や施設については、この右側にありますような、認証ステッカーあるいはマークを交付するというようにしています。認証を受けた施設、車両はこのステッカーのほかに、届け出によってこのマークをダウンロードして使用できるというものです。 もうご存知かと思いますが、空気のきれいな施設は認証要件にありますように、終日全面禁煙や、屋内に灰皿を置いていない、ビル内の施設の場合は施設のある階の共有スペースに喫煙場所がないことなどが要件です。本市も7月13日より始動をしたところです。ちなみにこれまでに認証施設、県全体802施設ありますが、そのうち福島市内の施設は372施設ということで、県内の中ではおそらく1番多いのではないかと思います。記載の通り、このような施設が市内にあるということです。そのうち市の所有施設という点では、かっこの1番下にあるように、236の施設があるという状況になっています。 私からの発表は以上です。</p> <p>質疑応答 それではただいま説明いたしました発表につきまして、質疑応答に移ります。ご質問がございましたら、挙手指名の後、社名とお名前をおっしゃっていただき、ご発言をお願いいたします。</p> <p>リアルタイム線量測定システムの件で、2点ほどお尋ねします。</p>
-------------------------	--

【福島市】

市長	<p>今回開催が2回にわたって行われるということについては、他の自治体ですと1回というケースが多いと思うのですが、ある程度住民の規模を考えてのことなのではないでしょうか。</p> <p>規模と、やはり1回だけだと行けない方が出てくると思います。その点では今回できる限り行きやすいという前提で平日の夜と、それでも行けない人のために日曜日の昼間に設定しましたので、その点では住民の皆さんに参加しやすい設定になっているかとは思っています。</p>
記者	<p>あともう1点なのですが、市としての姿勢、今後の撤去の在り方の姿勢についてなのですが、今の市長の話では除染土がある状況では賛成しかねるというお話だったと思いますが、今の除染土の撤去状況はどのようになっているのでしょうか。</p>
市長	<p>これはいろいろ動いているので、我々もリアルタイムでは把握できておりません。</p>
記者	<p>先ほどのお話だと、完全に撤去されたら相当数のというお話も出ていますけれども、例えば完了の見通しなどはある程度示されているのでしょうか。</p>
市長	<p>現場からの撤去は、学校に関していえば、早ければ31年度にと目標を立てております。仮置き場にまず持っていきます。それからその他の除染土壌につきましては32年度末までに持っていくという目標にしています。ですから、現場の土壌がなくなるのは32年度までにはなくなるという想定でやっておりますが、一方で仮置き場にはまだありますから、仮置き場に近い所などはまた別の判断、残っているという判断になります。</p>
記者	<p>そうすると今の現状ある、いわゆるモニタリングポストですが、仮置き場からも全て撤去された後にだったらある程度の数の集約というのは検討してもいいのではないかというお考えですか。</p>
市長	<p>全部というよりは、一応イメージでは個々でと考えておりますが、ただ一つ一つとなると大変ですから、一定のまとまりというか、そういったものを参考にしながらやっていくことにはなると思います。</p> <p>ただ、やはり撤去されたあとの、先ほど申し上げたようにリアルタイム以外は23なわけです。23だけとなると我々としても心もとないので、地域の皆さんのご意見などもお伺いをして、どの程度</p>

【福島市】

<p>記者</p>	<p>残したらいいかということ話し合いながら、必要な数は今のところ相当数としか申し上げられませんけれども、それは長期にわたって設置してモニタリングしていただくということにしたいと思っております。</p> <p>ただ一方で、最近の新聞報道にもありましたけれども、あれ自体早く撤去してくれというご意見があるのも確かです。私はやはり一種の福島が安全だと思うエビデンスとして長期にわたって相当数、特に子どもたちの不安があるところなどは必要だと考えています。</p> <p>警戒周知型水位計の件を教えていただけたらと思うのですが、改めて今回の新たな水位計のメリットといいますか利点というところと、特に周辺の住民の方に利用していただきたいということが主だと思うのですが、どのような形で利用していただきたいかを教えていただきたいのと、あとは、祓川のところに一か所ということなのですが、他の市内の川・河川も結構対象になるところがあると思うのですが、どのように今後広げていきたいのか教えてください。</p>
<p>市長</p>	<p>祓川の場合、ご承知の通り河川の幅が小さいので、この場合は少し雨が降ると、一気に増水をして浸水するという最近の傾向にありました。やはり今後そのような事態というものは多くなると想定されるので、その点ではリアルタイムで、1分単位で水位の動きを測定して、すぐに住民の皆さんにお知らせできるというのは大きなメリットだと思います。今後避難などの判断をしていただく上で非常に役に立つと思います。住民の皆さんに利用していただくためには、やはり通信機器などを使った仕組みになるので、先ほども申し上げましたように、申し込んでいただかないとこちら情報発信ができないので申し込んでいただきやすい対応を、我々の方から出ていって皆さんにご利用いただけるようにしたいと思います。</p> <p>あとご指摘のように祓川だけではなくて、今後浸水被害が心配される地域もあります。今回ここで検証したうえで、改善策などを施しながら、また他の地域でも、これが有効であれば活用していきたいと考えています。以上です。</p>
<p>記者</p>	<p>警戒周知型水位計のことなのですが、県内初と書いてあるのは、先ほど国は10分毎の監視をやっているという話だったのですが、どの部分が県内初なのでしょうか。</p>
<p>担当者</p>	<p>県内初というのは、中小河川において1分間で情報提供すること</p>

【福島市】

	と、警戒メールを登録者の方に配信することが県内初です。
記者	関連してなのですが、この設置する経緯としては、この前の西日本豪雨があったからではなく、こういった氾濫などという事案が多くなってきたということからということでしょうか。
市長	そうですね。このタイミングからしてもそれほどすぐにはできないので、やはり我々もこの被災の度々の浸水というのは、従来から地元でもすごく問題視されていまして、そういう点では準備を進めておりました。ただ今後、西日本豪雨災害などがあると、やはりこういった取り組みをさらに加速させなければいけないと認識しております。
広報課長補佐	ご質問はございますでしょうか。
市長	よろしいでしょうか。
広報課長補佐	それでは最後に、その他について何かご質問があればお願いします。
記者	市議が書類送検された問題について伺います。昨年の衆議院選で有権者におにぎり配布した疑いで、福島市議の宍戸一照さんが先週書類送検されました。宍戸さんは副議長を務めた議員で、昨年の福島市長選では、木幡市長の就任への幹部も務めていました。こうしたベテラン市議の書類送検を市長としてはどのように受け止めていらっしゃいますか。
市長	個別の市の議員に関する案件ですから、私がそれに関してコメントというのは差し控えさせていただきますが、やはり宍戸さんご自身も善意でやられていたことには間違いないわけで、我々も改めて公選法の規定に注意をしながら日々活動しなければならないと、私はこういった面で今回改めて思いました。
記者	関連してもう1つ伺います。この件に関して宍戸さんから既にお話を聞かれていたり、今後事情を聴く予定というのはあるでしょうか。
市長	いえ、これは私の仕事と関係する話ではないので、私からお話を伺うということは全く考えておりません。
記者	先日オリンピックの組織委員会が聖火リレーについて、福島が一

【福島市】

	<p>番最初にスタートするということを決めまして、その際に知事から、来月実際の委員会を起ち上げてルートについて具体的に検討するという話がありました。以前から市長にもお伺いさせていただいておりましたが、改めて今回のルートについて、福島市でいますと県営あづま球場があって、オリンピックが開催される場所があるということなのですが、福島市としての聖火リレーへの組み入れ方についてどう考えてらっしゃるかというのが、もし今の時点であればお願いできますでしょうか。</p>
市長	<p>今回の福島スタートということは、まさに復興五輪にふさわしい決定だと思って私は本当に感謝・感激しております。その場合に、福島市がどういう位置づけになるのかということで、我々県都ですし、それから野球・ソフトボールの会場にもなるので、まさかここがルートにならないということは無いと思います。地元の市長として、福島市はスタートの地点にするにはふさわしい場所の1つだと思いますし、その点ではここがスタートになってほしいなという気持ちはやまやまあります。ただ聖火リレーといえますと、今回のいろいろな全国を巡るルートを見ても、やはり一筆書きを前提でいろいろな事情が出てくると思います。その点では、あまり「うちが、うちが」というよりは、最終的に福島県民全体が喜ぶルート設定をしていただければありがたいと思っています。当然それは福島市が入る前提ではありますけれど。私自身は、やはり復興五輪というからには、今申し上げたように有力なスタート候補地点としては福島市か、やはり1番復興のシンボルである浜通りがいいのではないかと考えています。</p>
広報課長補佐	<p>閉会 他に質問がないようですので、以上をもちまして定例記者会見を終了します。皆様大変お疲れ様でした。</p>